

二〇二六年度

入学試験問題

国語

最初に、以下の注意事項をよく読んでください。

- 一、問題冊子は監督者の指示があるまで開いてはいけません。
- 二、監督者の指示により、最初に問題冊子の表紙と解答用紙の、指定された欄に受験番号と氏名を記入してください。
- 三、試験問題の内容に関する質問には応じません。それ以外の用事があるときは手をあげてください。
- 四、受験中気分が悪くなったときは、監督者に申し出てくださ
い。
- 五、字数に制限のある問題では「、」「や」「。」「などの記号も一
字と数えます。
- 六、解答用紙は持ち帰らないでください。

受 験 番 号
5

氏名

〔二〕 次の――部のカタカナを、漢字に改めなさい。

- ① 戦国ブシヨウについて学ぶ。
- ② ニユウヨク剤を買いに行く。
- ③ レキダイ総理の名前を覚える。
- ④ ショウジヨウを受け取る。
- ⑤ 在庫のシヨブンを行う。
- ⑥ シユクシヤで食事をする。
- ⑦ ハンザイを取り締まる。
- ⑧ 学問をオサめる。

〔二〕 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

問一 ……部Ⅰ～Ⅲについて、筆者が（ ）を用いて述べた意図の説明として正しいものには「○」、正しくないものには「×」で答えなさい。

Ⅰ（それも最近では落ちてきてしまいました）

……明確に言及すると論点がずれてしまうため、話が脱線しない程度に軽く補足している。

Ⅱ（偽善と言ってもいいかもしれません）

……強く主張することは避けながらも、皮肉めいた筆者の本音を控えめに主張している。

Ⅲ（らしい）

……自分の主張を遠まわしに伝えることで、読者に対し丁寧な印象を与えようとしている。

問二 —— 部1「たとえば」とありますが、この一文の冒頭部に接続詞を補うことで、筆者の論の流れをより読み取りやすくすることができます。十九行目の「しかし中には」で始まる一文をふまえて、最もふさわしい語を次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア そして
- イ したがって
- ウ そのため
- エ たしかに

問三 —— 部2「果たしてそれでいいのだろうか、と思ってしまうのです」とありますが、筆者はどのようなことに対して疑問を感じているのですか。また、本来どうあるべきだと考えていますか。それぞれ一文で答えなさい。

〈下書き欄〉

【筆者の疑問】

【筆者の考え】

問四 —— 部3「最大公約数的な文章をよしとするかは、人それぞれだしケースバイケースだとは思いますが」について、それぞれの問いに答えなさい。

- (1) 「最大公約数的な文章」とは、どのような文章ですか。その説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。
 - ア 個性を薄めて、幼い子どもでも理解できる平易な言葉を多く用いた、分かりやすい文章。
 - イ 書き手にとって自然な言葉の選び方よりも、万人にとっての伝わりやすさを重視した文章。
 - ウ 自分らしさを最大限まで盛り込むことで、書き手の特徴を読み手に明確に伝えられる文章。
 - エ 情報伝達を速度を何よりも重視し、厳選された最小限の言葉で記されている文章。

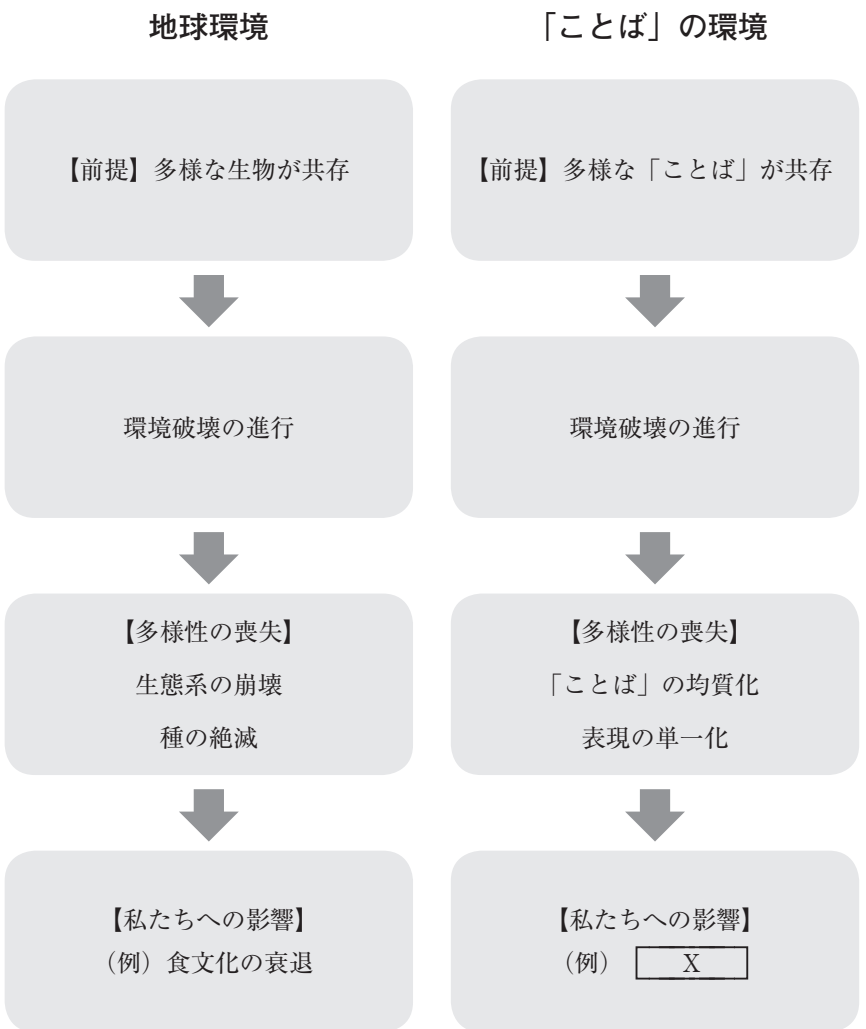
(2) 「最大公約数的な文章をよしと」したら、筆者が文章から失われてしまうと考えているものとしてふさわしくないものを〃部A～Dの中から選び、記号で答えなさい。

- A 自分の内と外に溢れている「ことば」
- B 自分の言葉の固有性
- C 自分の言葉の「個性」と呼ぶべき何か
- D 自分の「ことば」の志向性(嗜好性)

- (3) 筆者は、「人それぞれだしケースバイケースだとは思いますが」と述べながらも、「最大公約数的な文章」をよしとしない立場にあることが読み取れます。では、筆者が文章を書く上で大切にしたいと思っていることは何ですか。次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。
- ア 自己の特徴を自覚し意識的に強調することで、他者の個性に負けないようにすること。
- イ 文学性を高めることを目指し、他者の経験や知識も盛り込み表現を多彩たさいにすること。
- ウ 表現に現れる自他の個性の違いを認識し、自分の個性をありのまま表していくこと。
- エ より多くの人に受け入れられる文章であるために、内容以上に形式を重視すること。

問五

筆者は、――部4「地球環境の問題」と同じように――部5「私たちの「ことば」の環境問題」が生じると考えています。これに関してまとめた左の図について、後の問いに答えなさい。



(1) 「「ことば」の環境問題」が生じた場合、空欄 に当てはまる例としてふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 創造力の低下
- イ 協調性の欠如
- ウ 感情の希薄化
- エ 独自性の喪失

(2) 「ことば」の環境問題」において、「環境」を保護するために個人ができることとして当てはまるものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 自分の「ことば」のあらゆる特徴を個性としてより強化すること。
- イ 自分の「ことば」を客観視して多様性の一部として認識すること。
- ウ 自分の「ことば」が持つクセの良し悪しを早期に判断すること。
- エ 自分の「ことば」に他者が持つ長所を積極的に取り入れること。

問六

次の作文①・②は、夏休みの思い出をそれぞれ一文で表したものです。――部「複数人でそれぞれの文章を読み合って他人のクセを指摘してみるのも面白いと思います」をふまえ、これらの作文を生徒たちが読み、話し合っています。生徒A～Dのうち、筆者の主張と一致しないものを選び、記号で答えなさい。

作文① かんかん照りの昼下がりに、ざぶんと海に飛び込み、ぶかぶかと浮かびながら、けらけらと笑い合ったあの日がじんわり心に残っている。

作文② 一面に広がる花火は夜空に咲く一瞬の花のようで、太鼓のように響く音とともに夢のような非日常を人々に届けていた。

生徒A どれも特徴的に比喻が用いられているようですね。作文①には擬音語や擬態語がたくさん使われていますが、これは書き手のクセだと思います。私はこの文章を最初に読んだ際、少し違和感を覚えました。その理由は、自分ではこれらの言葉を使う習慣が無いからだと思います。機会があれば擬音語や擬態語を積極的に用いてみて、自分の表現の幅を広げてみたいです。

生徒B 他者の文章を読んで、自分の文章と比較してみるのも面白いですね。実は作文②を書いたのは私なのですが、①と読み比べてみて自分の作文には、「～のよう」という表現が多く使われていることに気がつきました。これは私のクセなのかもしれませんが、どのような場面でも通用する表現とは限らないので、自分にこういったクセがあるということをまずは意識しておきたいと思っています。

生徒C Bさんが書いた作文②には比喻表現が多いというクセがありますが、花火の様子が分かりやすく伝わってくる文章で素敵だと思いました。この作文のように、分かりやすく伝えることができる模範的な文こそ、人それぞれの経験や感覚に基づく「個性」に溢れた文章だと思っています。文章を書く際は、誰もが②と同様に具体的なたとえを用いるべきだと思います。

生徒D 私は作文①を書きましたが、②と比較してみると、①は読点の多さが目立ちますね。書く際に意識していたわけではないので、無意識にあらわれるクセだと思います。あらためて読み返してみても、読点の位置や数に違和感を覚えることはありませんでした。Aさんに指摘してもらった擬音語や擬態語の多用もそうですが、これらのクセを「個性」にできるかどうか試してみたいと思います。

(三) 小学五年生の雪乃が学校に行きづらくなってから十日たった夜、父（航介）は親子三人で東京から長野へ移住して雪乃を転校させ、夫婦で農家になるつもりで、仕事を辞めて帰ってきた。この話を聞いた母（英理子）と父の口論を、雪乃は隠れて聞いていた。両親の意見がかみ合わないまま次の週になり、三人は父の考えにとりあえず合わせるかたちで、長野にある父の実家に来た。次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

著作物利用のため本文は非公開とします

※1 眼窩：目の周囲のくぼみ。眼球を動かすための筋肉や神経が内部にある場所。

※2 さつき晩飯の後にきみが言ってくれた：本文の前の場面で、英理子が移住に反対していると知った「シゲ爺」と「ヨシばあば」が航介を責めたとき、英理子が航介をかばうように口をはさんだことを指している。

問一 空欄 ・ に漢字を補って、四字熟語を完成させなさい。

問二 〰〰〰部Z「高をくくった」の意味として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

- ア 周囲の人に依存していた
- イ 事態が好転するのを期待していた
- ウ 結果を甘く見積もっていた
- エ 一時的に投げやりになっていた

問三 —— 部1「全身が耳になった心地がした」とはどういうことですか。雪乃が置かれている状況を含めて、一文で説明しなさい。

〈下書き欄〉

--

問四 —— 部2「わけもなくどきどきした」のはなぜですか。説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 父が妻に愛情のまなざしを向けている場面を前にして、親の隠れた一面を意図せずのぞき見ている感覚になったから。

イ 父が話し終えるのを待って会話に加わろうと思っていたが、父が母に見とれているのを感じたら場違いな気がしてきたから。

ウ 父が疲れている母に言葉の上では寄り添いながら、自分の望みどおりに話を進めようとしているのではないかと疑ったから。

エ 父が母へ必死に弁解しようとしているのを感じ取って、父が何をどう話しても母の機嫌を損ねるに違いないと確信したから。

問五 —— 部3「頭上の豆電球を消したなら、月明かりだけでもけっこう明るいのかもしれないと雪乃は

思った」とありますが、この時の雪乃に関する説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 両親の意見が平行線をたどる様子を見続けることに耐えられなくなり、周囲に視線を移して気を紛らわそうとしている。

イ 母が父の謝罪を受け止めて許したのを母の無言から感じ取ったので安心し、周囲の景色に目を向ける余裕が生まれている。

ウ 両親が仲直りしたのを喜んだ後に、田舎のおだやかな時間の流れが二人の仲直りに一役買ったことに気づいて感謝している。

エ 母は父がどんなことをしても最終的には許すだろうと思っていたので、予想が当たったことに一人で静かに満足している。

問六 ——部4「雪乃**は**必死に、泣きそうになるのを我慢していた」とありますが、この時の雪乃に関する説明として最もふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア キャリアと娘のそばにいることのどちらも選べずにいる母の悲痛な思いが伝わってきて苦しくなったが、母が我慢しているのに自分が泣くわけにはいけないので、どうにか我慢している。

イ 自分が学校に行きづらくなったせいで母を困らせているということを出したが、自分のことで手いっぱいなので父に助けを求めるほかになく、どうにか念じて伝えようとしている。

ウ 母が夫や娘を捨てて今の仕事が続けることを選んだと知って深い悲しみにとらわれたが、大好きな母の決断なので受け入れなければならないと思い、どうにか納得しようとしている。

エ 自分の望む働き方と親としての責任感の間で苦しむ母の気持ちに共感して苦しくなったが、両親の本音の会話を途切れさせるわけにいけないので、どうにか寝たふりを続けている。

問七 ——部5「鼻の奥がじんと痺れて湿ってくる」とありますが、この時の雪乃に関する説明として最も

ふさわしいものを次のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

ア 父と母が勇気を出して本音で向き合ったことに感動し、自分も新しい環境で前向きにがんばって
いこうという強い気持ちが出てきた。

イ 結局父に押し切られるかたちになった母のやりきれない思いが、一言小さく抵抗しただけの様子か
らうかがえたので、心の中で同情した。

ウ 母と離れて生活することになるのは寂しいが、考えを伝えあって両親の心が通じたことは嬉しいの
で、自分の心もひとまず落ち着いた。

エ 両親の口論をそばで聞く居たたまれなさをこらえず息が詰まりそうだったが、限界を迎える前
に口論が終わったので、ほっとした。

問八

部Ⅰ「隣の居間から、柱時計の振り子の音が、小さく、でも規則正しく聞こえてくる」と部Ⅱ「振り子の音が、続いている」を情景描写と捉えて次のように説明する場合、空欄①・②に補うのに最もふさわしい言葉の組み合わせを後のア～エの中から選び、記号で答えなさい。

部Ⅰでは、①
部Ⅱでは、②
ことを「規則正しく聞こえてくる」「振り子の音」が表している。
ことを「続いている」「振り子の音」が表している。

ア

①両親の間に流れた沈黙に気まずさを感じながら、雪乃が事の経緯を思い返している
②今回の両親の口論がいつか思い出となって、自分が登校できるようになった未来で笑いながら語られることを雪乃が期待している

イ

①会話が途切れた静けさの中で、両親が次に発する言葉に雪乃が注意を向けている
②両親の議論はよいかたちで着地をみたものの、自分や家族の問題が根本的に解決したわけではないことを雪乃が再認識している

ウ

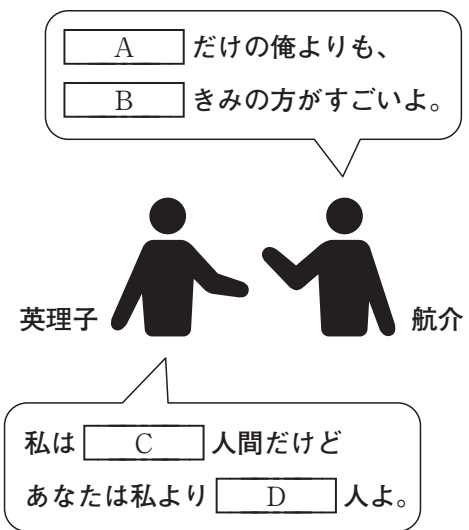
①言い訳に対する母の反応を待っている父の気まずい思いに、雪乃が共感している
②離れて暮らせば何かと手間はかかるだろうが、そのせいで親子三人の心が離れるということはないだろうと雪乃が予感している

エ

①話し声のせいでシゲ爺やヨシばあばが起きてくるのではないかと、雪乃が心配している
②家族の問題が父が始める農業や東京での母の仕事に影響して大きくなっていくことを、この時の雪乃はまったく想像できていない

問九

航介と英理子がそれぞれ自分や相手をどのような人物だと認識しているかを、次のように図にまとめた。空欄A～Dに当てはまる説明として最もふさわしいものを次のア～カの中からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。



- ア 新しい環境にも柔軟に適応できる
- イ 大きな問題が起きても一人で解決できる
- ウ どんな場面でも優れた力を発揮できる
- エ 他者の気持ちを想像しようとする姿勢がない
- オ 思い付いたことを実行せずにはいられない
- カ 経験の延長上にある物事にしか対応できない